

UNOPS新規プロジェクト 「王立医療サービスへの 新型コロナウイルス対応緊急運営能力強化」

日本政府は、令和2年度補正予算により、UNOPS（国連プロジェクト・サービス機関）のヨルダンでのプロジェクト「王立医療サービスへの新型コロナウイルス対応緊急運営能力強化」に対する約190万ドルの支援を決定し、同プロジェクトの立ち上げを受けて、6月29日、UNOPSと共同プレスリリースを発出しました。

本支援は、UNOPSとの協力の下、ヨルダン王立医療サービス（RMS）の施設改修及び機材調達を通じ、新型コロナウイルス流行の危機対応及びヨルダン国民とシリア難民の双方に対する、喫緊の保健医療サービス提供に寄与するRMSの運営向上を図ることを目的としています。

本プロジェクトの立ち上げは、日本政府、UNOPS及びRMS間のパートナーシップに基づき実施された、令和元年度補正予算のプロジェクトである、アンマンのキング・フセイン・メディカルシティにおける女性用外科病棟及び小児科病棟の改修、腎透析施設の改修及び機材供与の完了に引き続くものです。

嶋崎駐ヨルダン大使は、プレスリリースにおいて、「ヨルダンの医療部門におけるRMSの役割が非常に重要であることを認識し、COVID-19パンデミックに対応するための継続的な取り組みに感謝する。本プロジェクトが、COVID-19を始めとする深刻な病気の悪影響を緩和し、シリア難民を含む脆弱な人々に医療サービスを提供するために、RMSの緊急の運営能力の向上に寄与することを願う。また、ヨルダンを支援するための複数のプロジェクトを実施するための貴重なパートナーとして、UNOPSに感謝の意を表する」旨述べました。



昨年のプロジェクトで改修されたキング・フセイン病院の女性病棟

Photo @UNOPS